

かお・人・interview

2025年9月8日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
長崎港湾・空港整備事務所 所長

野口博之氏

NOGUCHI Hiroyuki

長崎県は日本最西端に位置し、東アジアクルーズの玄関口として重要な役割を担う。長崎港湾・空港整備事務所は、全国一の離島数を誇る県内で離島港湾や長崎空港の整備、防災対策から地域活性化まで幅広く担っている。気候変動による災害リスクやインフラ老朽化への対応に加え、洋上風力発電など新産業の創出にも注力。国境離島の重要性和環境に配慮した港湾づくりの展望を野口所長に伺った。

Q所長就任にあたっての抱負

この度、約30年ぶりに長崎港湾・空港整備事務所に勤務いたします。歴史と自然に恵まれ、全国一位の離島数や長い海岸線をもつ長崎の発展に携われることに身が引き締まる思いです。当事務所は、長崎・佐世保・厳原など主要港湾や長崎空港をはじめ、壱岐・対馬・五島といった国境離島のインフラ整備や防災対策、さらには新しい産業創出、地域の活性化に幅広く携わっています。離島の暮らしや経済、並びに九州の海の玄関口としての港湾・空港機能を守り、高めていくことが私たちの責任です。

近年の長崎県は毎年のように強い台風が通過するため、インフラの防災・減災強化や老朽化対策の一層の推進が求められています。また、脱炭素社会の実現に向け、洋上風力発電など再生可能エネルギーを支える港湾づくりにも力を入れています。気候変動や国境離島の役割にも注目し、地域の皆様と連携しながら、長崎の発展に尽力してまいります。



▲クルーズ船の寄港地 長崎港

Q地域活性化に向けた港湾インフラの整備

長崎県の港湾・空港は、住民の日常を支えるだけでなく、観光や国際交流・物流の発展の要となる存在です。特に、長崎港や佐世保港は東アジアの各都市に近く、国際クルーズの行程上、地理的な優位性（ファーストポート、ラストポート）があり、背後に豊富な観光資源を有しています。このため、近年、旺盛なアジアや欧米のクルーズ需要（インバウンドの果実）を確実に取り込むため、長崎港や佐世保港において、大型クルーズ船に対応した岸壁等の整備を行うことで、地域の活性化につなげています。

一方で、デジタル技術を活用した業務の効率化やドローンやAIの活用など、次世代に向けた新たな基盤づくりも進めています。

Q 当事務所の紹介

当事務所は、長崎県を管轄区域としており、管内には重要港湾5港を含む82の港湾、3つの開発保全航路、1つの空港があります。現在、直轄事業を展開する主要な港や空港の特徴も含め、ご紹介します。

長崎港は、鎖国時代日本で唯一の海外の玄関口として、産業や文化の受け入れに重要な役割を果たしてきました。明治時代には基幹産業である造船業の礎が築かれ、近年では国内有数のクルーズ船の寄港地として着実に実績を積み重ねています。令和3年には開港450周年を迎え、今後も地理的優位性を活かした東アジアへのゲートウェイとして期待されています。また、長崎県内唯一の国際コンテナターミナルをはじめ、物流効率化と渋滞緩和を目的とした女神大橋や離島の生活や経済を支えるターミナルを有するなど、重要な役割を担っています。当事務所では、今後も外航クルーズ船の受け入れ「お断りゼロ」を目指した港湾整備に努めて参ります。



▲国際クルーズ拠点 佐世保港(浦頭地区)

佐世保港は、明治22年に鎮守府(ちんじゅふ)が開庁され軍港として発展しました。戦後は、米軍基地が置かれ港内の利用が制限される中、造船業や重工業を中心とした生産拠点として、また、穀物や石炭などの輸入貨物を受け入れる物流拠点として重要な役割を担ってきました。近年は佐世保駅に隣接し離島航路が発着する三浦地区

で国際ターミナルや緑地が整備されるなど、賑わい拠点としても重要な役割を担っています。平成29年7月には国際旅客船拠点形成港湾に指定され、浦頭及び三浦地区において、更なるみなとの賑わいと国際交流の拡大が期待されています。当事務所では、これまでに、国際クルーズ拠点や国内物流ターミナルなどの主要な港湾施設を整備してきました。今後も港湾施設の老朽化対策などに努めて参ります。



▲国際交流の玄関口 厳原港

厳原港は、九州の北西、博多港から約140km、九州と朝鮮半島の間にある対馬の南東部に位置し、古来より中国や朝鮮との交易港として栄えてきました。令和2年にはこれまで混雑していた物流・人流機能を分離させ、対馬の暮らしを支える人流・物流の拠点、並びに国際定期航路(対韓国)の基地として重要な役割を担っています。当事務所では、これまでに、離島ターミナルなどの主要な港湾施設を整備してきました。今後も港湾施設の老朽化対策などに取り組むこととしています。

長崎空港は、世界初の本格的な海上空港として昭和50年5月に供用開始され、令和7年には開港50周年を迎えました。現在は、東京や大阪、県内離島を中心とした国内9路線に加え、上海、香港(現在、運休中)、ソウルの海外3路線も就航しています。当事務所では、これまでに、滑走路やエプロンなどの空港内の主要な土木施設を整備してきました。今後も空港施設の安全対策などに取り組

▼長崎港コンテナターミナル

長崎県は日本で最も離島が多く、
港は人々の生活や経済活動を支える
重要な役割を担っています。
だからこそ、港の発展は
地域活性化につながります。



むこととしています。

また、開発保全航路の平戸瀬戸航路、蟬蛾ノ瀬戸(じょうがのせと)航路、万関瀬戸航路を所管しており、引き続き保全や管理などに取り組むこととしています。



▲世界初の本格的海上空港 長崎空港

Q今年度の事業概要

長崎港では、長崎港松が枝地区旅客船ターミナル整備事業を進めています。本事業は、クルーズ船の受け入れ「お断りゼロ」を目指し、16万トン級の大型クルーズ船が2隻同時接岸できるよう岸壁を2バース化するものであり、2020年度から事業に着手しています。直轄では延長410m水深12mを有する岸壁などの主要な港湾施設を整備しています。

佐世保港では、畜産飼料や石炭などを取り扱っている前畑地区において、港湾施設の老朽化による利用制限や非効率作業を解消するため、既設岸壁の改良を進めています。

厳原港では、近年の激甚化・頻発化する台風や高波、並びに港湾施設の老朽化への対策のため、既設防波堤の改良を進めています。

長崎空港では、航空機のオーバーランやアンダーシュートから人命を守り機体の損傷を軽減させるため、滑走路端安全区域(RESA)に係る用地造成を進めています。当事務所では、引き続き、港湾や空港における国土強靱化、安全・安心の確保に取り組んでいきます。

Q地域との連携・協働について

港湾や空港の事業を推進するにあたり、自治体との協力は不可欠です。ホットラインを活用し、各地域首長と率直な意見交換を行い、地域活性化について話し合っています。特に、人口が増えにくい離島では、観光やクルーズ船の誘致が経済の鍵を握ります。このため、国境離島の発展を目指して毎年「離島研究会」を開催し、各地の代表者が集まり、港の新しい役割や、それを生かした地域発展策について多様なテーマで検討しています。



▲海上交通の要衝 平戸瀬戸航路



▲長崎市内の高校生による現場見学会

また、小中学校を対象とした出前講座等を実施し、港湾の役割や空港と暮らしの関わりをわかりやすく伝えていきます。これにより、地域の子どもたちが社会インフラを知り、建設業への関心を高める役割も担っています。

Q地域建設業への要望・メッセージ

地元の建設業の皆様には、経済活動を支える港湾・空港のインフラ整備や災害時の地域の守り手として重要な役割を担っていただいています。しかし現在、業界の人材不足は深刻であり、これを改善すべく、将来を見据え、「働き方改革」「担い手の育成・確保」「生産性の向上」の取り組みについて積極的にご協力いただいているところです。今後も意見交換を重ね、地域社会や建設業の向上に貢献できるよう取り組んでいきたいと思っています。

Q趣味や健康法について

健康維持のため、散歩することが趣味になりました。温泉も好きですので、長崎県内の温泉・観光地巡りを通して、コロナ後のインバウンドの回復やオーバーツーリズムの濃淡、港湾貨物の流動状況など今後の事業展開に繋がるよう注視しています。歩くことで長崎の「今」を体感でき、長崎の未来像が描けます。

座右の銘は、「情けは人のためならず」や「一期一会」です。若い頃転勤に不慣れだった経験から、これらの言葉を大事にしています。

プロフィール



熊本市生まれ、58歳。
 H元年 入省
 H31年4月 九州地方整備局港湾空港部
 港湾計画課長補佐
 R 3年4月 八代市経済文化交流部次長
 R 5年4月 九州地方整備局港湾空港部クルーズ
 振興・港湾物流企画室長

R 6年4月 九州地方整備局港湾空港部事業継続計画官
 R 7年4月 現職